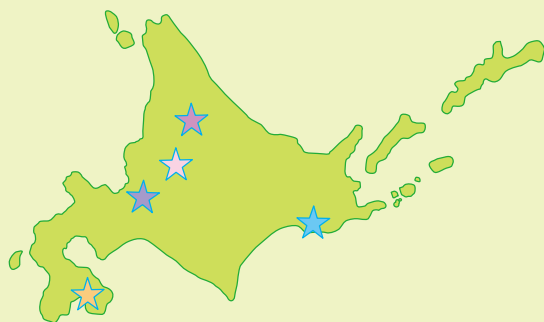


基金だより



F U N D R E P O R T

第15号



国立大学法人

北海道教育大学

HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

はじめに



北海道教育大学長
蛇 穴 治 夫

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本学では、教員をめざす、あるいは地域社会の様々な分野で活躍しようと勉学に励む学生を支援するため、平成18年12月に基金を創設し、募金活動を実施してまいりました。

この間、多くの企業・団体、同窓生、学生の保護者及び教職員をはじめとする、本学を思う様々な方々からご寄附を賜り、これまでに、延べ730名を超える学生に奨学金を授与してまいりました。また、経済的な理由により修学が困難な学生を支援する『修学支援事業』、キャンパス独自の取組の活性化とリノベーション（再生・刷新・創造）実現を目的とする『キャンパス活性化リノベーション事業』を創設・実施するなど、大変有意義に基金事業を展開することができました。

皆様から温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、現代社会に目を向けると、グローバル化などの進展に加え、Society5.0の実現に向け社会構造の変化がますます加速する中、予測困難な時代を生きる子どもたちの教育に求められる内容も変化しています。本学では、教員を「教育に関する高度な専門職業人」と捉え、教育に関する専門的知識に裏打ちされた実践力や自ら問題の発見・解決に取り組む基本的な臨床的研究能力、そして教育的愛情と使命感を基礎として学び続ける力を持った人材を養成しています。これにより「質の高い教育をみんなに」というSDGsの目標4の達成に寄与しています。

また、地域社会では、少子高齢化や人生100年時代の到来、地方創生の実現に向けた諸課題が山積する中、持続可能で活力ある社会を目指した変革が求められており、「国際地域学科」と「芸術・スポーツ文化学科」では、グローバルな視点をもって地域を活性化する人材、芸術やスポーツ文化を通じて人々に豊かで健康な生活を提案できる人材を養成しています。これはSDGsの「住み続けられるまちづくりを」（目標11）、「すべての人に健康と福祉を」（目標3）という目標達成に寄与することにつながります。

本学は、次世代を担う人材養成のため、充実した教育体制や教育を支える環境整備はもとより、学生自身の自発的で積極的な学習への取組の奨励、経済的な理由により学業を断念することなく、安心して学業に専念できるための支援を行うなど、今後も基金事業を充実・継続し、「教員と地域人材の養成を通じて、地域の成長・発展を牽引する大学」の実現に努めてまいりますので、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

目 次

1. 令和3年度事業報告	2	5. 寄附者のご紹介	9
2. 基金の収支状況	2	企業、法人、団体等	9
3. 育英事業奨学金受給者から	3	個人	10
学部学生	3	6. 大学の近況報告	11
大学院生	6	7. お知らせ	13
4. 奨学金授与者数	8		

1

令和3年度事業報告

令和3年度事業として以下のとおり実施しました。

育英事業

- ① 優秀な大学院生（現職教員以外）への奨学金給付
10名に対し、1人10万円 計100万円を給付
- ② 優秀な学部学生への奨学金給付
15名に対し、1人10万円 計150万円を給付
- 合計 25名 250万円を給付

修学支援事業

- ① 経済的理由により修学困難な学生に対する奨学金給付
16名に対し、1人10万円 計160万円を給付
- ② 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、経済的理由等により修学困難な学生に対する奨学金給付
437名に対し、1人8千円～3万円 計4,458,000円を給付
- ③ 学生の海外留学支援のための奨学金給付
5名に対し、海外留学に係る渡航費用の一部補助として、計476,000円を給付

表彰事業

意欲的に学習や自己研鑽に励み、学業成績優秀な学生や課外活動等の成果が特に顕著な学生等を表彰
学業成績優秀者16名、人命救助7名、その他の表彰 個人3名、団体1組（表彰状及び記念品を贈呈）

キャンパス指定事業、附属学校（園）支援事業

「キャンパス活性化リノベーション事業」による修学環境の整備、岩見沢校サッカー部の活動支援のほか、各校の修学環境整備、学生支援、教育支援、就職支援、学生活動支援等に要した経費を支出

2

基金の収支状況

令和3年度のご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収 入		支 出	
前年度からの繰入	56,295,929		
修学支援事業	5,845,706	修学支援事業	6,578,501
その他の事業	49,085,888	その他の事業	34,771,889
育英事業等	335,421	育英事業等	2,687,376
キャンパス指定事業	31,318,617	キャンパス指定事業	22,588,529
附属学校（園）支援事業	17,431,850	附属学校（園）支援事業	9,495,984
		管理費（リーフレット、手数料等）	715,351
合 計	111,227,523	合 計	42,065,741
		差引収支額	69,161,782

平成18年12月の基金創設時から、令和4年3月までのご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収 入		支 出	
修学支援事業	50,819,616	修学支援事業	29,793,587
その他の事業	288,509,497	その他の事業	236,359,116
育英事業等	97,395,636	育英事業等	92,046,601
		現代的教育課題への研究支援事業	306,188
キャンパス指定事業	153,376,534	キャンパス指定事業	123,118,057
附属学校（園）支援事業	37,737,327	附属学校（園）支援事業	20,888,270
		管理費（リーフレット、手数料等）	4,014,628
合 計	339,329,113	合 計	270,167,331
		寄附金残額	69,161,782

学部学生

◆札幌校 教員養成課程 学校教育専攻 2年 谷 来瞳

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。お話をいただいた時は驚きましたが、日々の努力をこのような形で評価していただき、大変嬉しく思います。

現在私は、小学校教員を目指して日々勉学に励んでおります。教員になった際に、自分の力になることを学ぶことができていると感じています。これからも支えてくれている周囲の人々への感謝を忘れず、子どもの成長を支えることのできる教員になれるよう、より一層精進していきたいと思います。今回は本当にありがとうございました。



◆札幌校 教員養成課程 生活創造教育専攻 3年 鈴木 由喜

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で日頃の努力を評価していただいたことを、大変嬉しく光栄に感じております。

今回、奨学生として選んでいただいたことを原動力に、これからより一層勉学に励んでいきたいと思ひます。多くの方々を支えていただいていることへの感謝の気持ちを忘れず、日々精進して参ります。この度は、本当にありがとうございました。

◆札幌校 教員養成課程 理数教育専攻 4年 小林 可奈

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力をこのような形で評価していただけたことを大変嬉しく思います。

私は現在、化学を専門に大学で学び、中学校理科の教員を目指しています。日常生活の事象・現象をいつも見ている視点とは異なる科学的な視点から捉えることのできる理科の面白さを子どもに伝えられるよう、これからも勉学に励みたいと思ひます。

この度ご支援くださった皆様に感謝申し上げます。



◆旭川校 教員養成課程 教育発達専攻 2年 大泉 文悠夏

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。日々の努力の成果をこのような形で評価していただけたことを大変光栄に思ひます。

私は現在、自分の専攻する分野である特別支援教育を中心に、日々勉学に励んでおります。子どもの個性を尊重し、努力を支え、共に成長できる小学校教諭を目指して、これからも精進してまいります。

この度のご支援、誠にありがとうございました。

◆旭川校 教員養成課程 教育発達専攻 3年 鈴木 彩心

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力をこのような形で評価していただき、大変嬉しく思ひます。

現在、私は、自分の専攻分野である幼児教育を中心に、日々勉学に励んでおります。今後も、私を支えてくださった多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、子どもたちの個性を大切にしたい教育について学びを深められるよう、精進してまいります。本当にありがとうございました。





◆ 旭川校 教員養成課程 英語教育専攻 4年 亀山 穂波

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力をこのような形で評価していただけたこと、大変嬉しく思っております。

私は現在、憧れであった中学校の英語の先生になるため、日々勉学に励んでおります。私の目指す子ども達に英語学習の楽しさと多様な個性を尊重することの大切さを伝えられるような教師になるため、これからも支えてくれている方々への感謝の気持ちを忘れず、より一層努力を続けていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

◆ 釧路校 教員養成課程 地域学校教育実践専攻 2年 熊谷 天音

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。お話をいただいたときはとても驚きましたが、奨学生として選出していただけたことを大変嬉しく思っております。このようなお話をいただけたのは、支えてくださる大学の先生方や先輩方、友人、家族のおかげです。様々な人に支えられ、日々成長することができています。支えてくださる方々に感謝しながら、これからも努力を惜みず、奨学生という名に恥じぬよう勉学に励みます。本当にありがとうございました。



◆ 釧路校 教員養成課程 地域学校教育実践専攻 3年 小野 栞

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。このような身に余る名誉を賜りましたのは、学生の声に寄り添って指導して下さる先生方と、ともに離れた故郷を胸に、学び合ってきた仲間がいたからこそです。また「学生応援プロジェクト」を初め、様々な支援のおかげで、コロナウイルスの流行下でも勉学に励むことができました。

素晴らしい先生方や仲間に出会えたことや、ご支援への感謝の気持ちを忘れず、今後も努力してまいります。重ねて、この度はありがとうございました。

◆ 釧路校 教員養成課程 地域学校教育専攻 4年 土屋 柁

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。嬉しさを感じるとともに、これからもより一層努力を積み重ねていきたいという思いが高まりました。

これまでの大学生活で教育に関する多様な知識や経験を得ることができました。卒業まで残り少ないですが、これまで自分が得てきたものを教育現場で活用できるよう振り返り、具体的な手立てを考え、実践力を蓄えるような日々にしよと考えています。この度は、本当にありがとうございました。



◆ 函館校 国際地域学科 地域協働専攻 2年 渡邊 晴生

この度は、北海道教育大学基金育英事業より、奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で成績を評価してくださったことで、さらに学業に対する動機を高めることができました。

1年と半年を通して、「国際地域学科」の持つ学際性の魅力に気づくことができました。これからは、函館という地域の特色も活かしつつ、ひたすらに学業に邁進していきます。

ご支援していただき、誠にありがとうございました。

◆ 函館校 国際地域学科 地域協働専攻 3年 多田 悠華

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より御礼申し上げます。
奨学生に選んでいただき、大変大きな喜びを感じるとともに、より一層勉学に励んでいきたいと思っております。
私がこうして奨学生に選んでいただけたのは、ひとえに指導教員の外崎紅馬先生をはじめとする本学の先生方や、いつも支えてくれている家族や友人のおかげであります。
ご支援を賜りました皆様への感謝を忘れず、社会に貢献できる人間に成長していきたいと思っております。本当にありがとうございました。



◆ 函館校 国際地域学科 地域協働専攻 4年 高山 結依菜

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。
思いがけず日頃の努力をこのような形で評価していただき、大変嬉しく思います。
卒業まで残りわずかとなりましたが、ご支援いただいた皆様はもちろん、ご指導して下さる先生方や支えてくれる家族や友人への感謝の気持ちを忘れず、日々精進して参りたいと思っております。この度は誠にありがとうございました。

◆ 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻 2年 横山 悠子

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。このようなお話をいただいたことに驚き、日頃の取り組みを評価していただけたことを大変嬉しく思います。また、支えてくださった周囲の方々には感謝の思いが絶えません。
この先の大学生活において、制作や学びで美術を追求していきながら、子どもの教育と結びつけるあり方を模索していきたいと思っております。寄附していただいた皆様への感謝の気持ちを忘れずに、社会に還元できるよう日々研鑽を重ねてまいります。



◆ 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 音楽文化専攻 3年 千葉 菜々子

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき誠にありがとうございます。
日々の取り組みをこのような形で評価して頂き、自分の新たな自信に繋がりました。
教育実習を通してたくさんの子どものもとたちと関わりながら、実際の現場で授業を行った経験は本当に多くの学びを得ることができました。
周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、これからもより一層の努力を、日々大切にしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

◆ 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 芸術・スポーツビジネス専攻 4年 平山 紗也華

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき誠にありがとうございます。
お話をいただいたときは大変驚きましたが、これまでの成果を評価していただけたことを大変嬉しく思っております。
卒業まで残りわずかではございますが、ご支援いただいた皆様への感謝の気持ちを忘れずに、積極的な姿勢と向上心を持ちながら勉学や学生生活に励んでいきたいと思っております。本当にありがとうございました。



◆ 学校教育専攻 学校教育専修（札幌・岩見沢校） 2年 小野 泰聖

この度は、北海道教育大学基金育英事業より、奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。

大学院に入学後は、学会や研究会等の参加費や実際の研究のための費用、専門書の購入等の負担額が大変多くなりました。そのため、このような援助を頂き、金銭的負担が減ったことで、より自分の研究活動に注力することができました。

ご支援いただいたことに関する感謝を忘れずに、今後も研究活動に取り組みます。改めて、本当にありがとうございました。



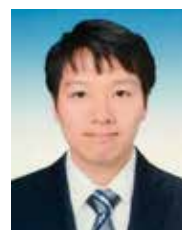
◆ 学校教育専攻 学校教育専修（札幌・岩見沢校） 2年 脇谷 あゆみ

北海道教育大学基金のご支援をして下さっている企業・団体・法人の皆様、先輩方、保護者及び教職員の皆様、そして基金に関わる全ての方に心より感謝しております。私はこの度、奨学金という形で皆様のお気持ちを頂戴致しました。そちらは研究テーマである「セルフ・コンパッション（自分への思いやり）」を養う小学生向け心理プログラムの研究費に充てさせて頂きます。皆様からのご支援やお気持ちを、未来の子どもたちに還元できるよう精進致します。重ねて御礼申し上げます。

◆ 教科教育専攻 理科教育専修（札幌・岩見沢校） 2年 今井 大貴

このたびは、北海道教育大学基金奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。

このような過分な名誉にあずかることができたのは、今までご指導していただいた先生方や支えていただいた方々のおかげです。残り短い大学院生活ですが、支援していただいた方々への感謝の気持ちを忘れずにより一層研究に邁進し、理科教育に関する見識を深め、また、より良い教員となれるよう今後も勉学に努めてまいります。この度は本当にありがとうございました。



◆ 教科教育専攻 保健体育専修（札幌・岩見沢校） 2年 浅野 勇

この度は、北海道教育大学基金育英事業より奨学金のご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

授与して頂いた奨学金は、研究成果を発表するための国内外の学会への参加費や研究に関する書籍の購入費に充てることができ、このようなご支援を大変有り難く感じております。今回、ご支援して頂きました育英事業に関わる皆様方への感謝の気持ちを忘れず、より一層研究に励んで参ります。本当にありがとうございました。

◆ 学校教育専攻 学校教育専修（旭川校） 2年 岩間 叶実

この度は、北海道教育大学基金育英事業より、奨学金を授与していただきましたことに心より感謝申し上げます。奨学生として選ばれたことに驚きを感じるのと同時に、日々の取り組みをこのような形で評価していただけたことを大変光栄に思います。

日々私を支えてくださる先生方や家族、友人、多くの方への感謝の気持ちと学び続ける姿勢を忘れず、今後も自己研鑽に努めてまいります。誠にありがとうございました。



◆ 教科教育専攻 数学教育専修（旭川校） 2年 奥村 翔

この度は、北海道教育大学基金育英事業の奨学生として選出されたことを大変光栄に思っております。授与された奨学金は、研究や学会への参加のために使わせていただきます。

現在は、「文字式」に焦点を当てて研究を行なっています。来年度からは数学科の教員として、大学院で学んだことを多くの機会還元していきたいと思っております。今後ご支援いただいている多くの方々への感謝を忘れず、日々研鑽を積んで参ります。本当にありがとうございました。



◆ 学校教育専攻 学校教育専修（釧路校） 2年 木田 美也子

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力をこのような形で評価していただき、大変うれしく思います。

長年の夢だった子どもに寄り添うことのできる教員を目指して、学部・大学院とたくさんの方に支えられながら勉学に励んで参りました。今回のご支援で、書籍の購入や生活費など自分の負担を減らし、より勉学に励むことができました。これからも感謝の気持ちを忘れずに、日々精進して参ります。本当にありがとうございました。

◆ 学校教育専攻 学校教育専修（函館校） 2年 宮野 希

この度は、北海道教育大学基金育英事業より、奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。

大学院生活は、コロナ禍で学会等もすべてオンラインになってしまい非常に残念でしたが、このような形で日々の研究を評価していただけたことを大変嬉しく思います。ご支援して頂いた方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも精進していきます。本当にありがとうございました。



◆ 学校臨床心理専攻 学校臨床心理専修（札幌校） 2年 濱 圭佑

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。大学4年生の時、今の自分が現場に出て何ができるのだろうと思いついて大学院に進学することを決意し大学院での学びに励んで参りましたが、今回そのような自分の活動を評価していただき光栄です。

今後は中学校教員として大学院での学びを現場で実践していくこととなりますが、常に学び続ける教員でありたいと思っております。

◆ 高度教職実践専攻 高度教職実践専修（釧路校） 2年 江渡 明香

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。

奨学金のお話をいただいた際には、自分が選ばれたことに対してとても驚きました。教職大学院や実習校の先生方、同期の仲間たちに支えられ、勉学に励むことができているからこそだと思います。

頂いた奨学金は今後の教材研究をはじめとする自己研鑽のために活用させていただきます。ご支援をいただいた皆様、この度は本当にありがとうございました。



（単位：人）

区 分		札幌校 札幌・岩見沢校	旭川校	釧路校	函館校	岩見沢校	計
平成19年度	大学院生	7	5	3	3	—	18
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	13	11	9	9	6	48
平成20年度	大学院生	32	15	13	4	—	64
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	38	21	19	10	6	94
平成21年度	大学院生	42	25	16	5	—	88
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	48	31	22	11	6	118
平成22年度	大学院生	36	16	12	5	—	69
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	19	15	8	3	84
平成23年度	大学院生	36	11	10	3	—	60
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	14	13	6	3	75
平成24年度	大学院生	33	16	8	4	—	61
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	36	19	11	7	3	76
平成25年度	大学院生	20	8	7	2	—	37
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	23	11	10	5	3	52
平成26年度	大学院生	3			2	—	5
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	6	3	3	5	3	20
平成27年度	大学院生	2		4		—	6
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	5	3	7	3	3	21
平成28年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成29年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成30年度	大学院生	5	2	2	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	5	5	4	3	25
令和元年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
令和2年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
令和3年度	大学院生	5	2	2	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	5	5	4	3	25
計		295	166	135	88	54	738

5

寄附者のご紹介

北海道教育大学基金は、平成18年12月に創設以来、これまで多くの方々にご協力をいただき、学部学生、大学院生への支援をはじめ、寄附講座開催や修学環境整備等への支援を行っております。

ここに、そのご厚志に対し感謝を申し上げますとともに、ご同意をいただいているの方々のご芳名とご寄附額をご紹介します。

■寄附者ご芳名 ※令和3年4月～令和4年3月までにご寄附をいただいた方々を掲載しております。

企業、法人、団体等（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

10万円以上

AUTO×AUTO 様	株式会社ZAWA.com 様
株式会社GGC Spocli LABO 様	空知リゾートシティ株式会社 様
一般社団法人北師同窓会 様	株式会社北海道アルバイト情報社 様
北海道教育大学旭川校後援会 様	北海道教育大学岩見沢校自治会執行部 様
北海道教育大学鶴陵会 様	北海道教育大学釧路校後援会 様
北海道教育大学札幌校教育後援会 様	北海道教育大学青陵会 様
北海道教育大学函館校尚学会 様	北海道教育大学六稜会 様
北海道教育大学六稜会平成4年卒同期会大志の会 様	「学びを止めるな!」プロジェクト発起人一同 様
株式会社moderate 様	※五十音順

10万円未満

特音第33期有志一同 様	株式会社マウントアライブ 様
--------------	----------------

※五十音順

企業、法人、団体等（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

有限会社河村工業 様	空知会 様
------------	-------

※五十音順

個人（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた個人）

10万円以上

柿沼博彦様	菊地圭様	金 玗辰様	後藤泰宏様	蛇穴治夫様
竹内康浩様	玉井康之様	千葉康様	萩原義昭様	村瀬正貢様

※五十音順

10万円未満

荒川浩一様	庵 健司様	石川公浩様	石川昌志様	石原正敏様
岩村直幸様	宇野貴雄様	小野川文子様	門脇正俊様	川岸直人様
菊野雅之様	北村 聡様	栗栖泰子様	栗田俊一様	黒崎米造様
光島隆二様	小林佳之様	斎藤祥子様	齊藤貴士様	斉藤実咲様
酒井多加志様	佐々祐之様	佐藤康幸様	佐野比呂己様	椎野高志様
志手典之様	品田亮子様	島澤正弘様	清水秀朗様	諏方幸紀様
瀬川明廣様	関谷由一様	千賀 愛様	富永 均様	中島太郎様
中島紘子様	中塚英俊様	野島 操様	野村 卓様	野村秀男様
林 吉明様	早藤明男様	樋口英子様	福田重三様	藤原文夫様
前田三四郎様	松元和幸様	三上 修様	水上丈実様	水野眞吉様
宮本里欧様	安川禎亮様	山内祈信様		

※五十音順

個人（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた個人）

青木昌雄様	浅井継悟様	渥美伸彦様	荒木信義様	五十嵐靖夫様
諫山邦子様	石塚博規様	板津邦夫様	市橋博子様	伊藤皓嗣様
入江修策様	植木克美様	内山 隆様	大橋賢一様	奥田知靖様
奥村 広様	笠原 究様	片桐正敏様	鎌田浩子様	河原史敏様
川前あゆみ様	神林 勲様	國安 環様	糊澤 実様	小島容子様
小林芳博様	佐藤達夫様	咲田竜一様	佐々木貴子様	佐野真一郎様
末永多加晴様	菅井一憲様	杉本典充様	高崎優子様	高橋 丈様
田口 哲様	竹林 亨様	玉野昭二様	戸田竜也様	飛世浩喜様
中島大輔様	中田好子様	中西紗織様	南部正人様	野戸 忠様
野村 公様	芳賀 均様	橋本 彩様	橋本忠和様	畠山治夫様
樋口壽夫様	樋口 誠様	久田行雄様	平岡 亮様	福家 尚様
古屋接雄様	本庄十喜様	本庄利光様	松原尚志様	森健一郎様
八重樫良二様	八木利夫様	山下英幸様	横山 悟様	横山吉樹様
吉田 勉様	吉本 晋様	若松泰生様		

※五十音順

■ 大学院教育学研究科の学生が日本アダプテッド・体育スポーツ学会 2021年度若手研究者国際交流奨励賞を受賞

日本アダプテッド・体育スポーツ学会の2021年度若手研究者国際交流奨励賞を大学院教育学研究科2年 雨宮かさねさんが受賞いたしました。

【受賞者の声】

フィンランド・ユベスキュラ大学が主催し、オンラインにて開催されたISAPA2021-International Symposium of Adapted Physical Activity (2021年6月15日～6月18日)で「A comparison of the amount of physical activity in inclusive free play and exercise instruction situations」と題し、ポスター発表を行いました。

発表では、北海道教育大学札幌校で行っている余暇支援活動「キンダーぷらっつ」に参加した自閉症スペクトラム障害児の一事例について、インクルーシブな余暇活動支援における自由な運動遊び場面と、支援者が介入をする運動指導場面における、身体活動量と活動内容を比較した結果を報告しました。

今回の発表の中で取り上げた「キンダーぷらっつ」は、特別支援教育臨床スペースの身体活動スペースを利用して月に1度実施されている地域の子供たちが参加するインクルーシブな余暇活動支援です。ここ2年間は、COVID-19の影響により思うように活動できない時期もありました。このような状況の中で行った研究活動を、ISAPA2021のポスター発表として一つの形として残すことができたことを嬉しく思います。学生という立場でありながらも、世界中の研究者の発表に触れることができたことは、私にとって、今後の研究活動に対するモチベーションを高めるきっかけになりました。



■ 旭川校で人命救助による学生表彰を実施

令和3年12月7日(火)、北海道教育大学学則第80条及び北海道教育大学学生表彰規則第2条第2号に基づく学生表彰を行いました。

この表彰は、令和3年8月、旭川校の学生7名が課外活動中に倒れた学生に対し、救急車到着までの間にAEDを使用するなど連携して迅速かつ適切な救命処置を施し、1人の命を救ったことから、人命救助活動として優れた行為であると認定したものです。

倒れた学生は現在、以前と変わらない生活を送っており、7名の学生の的確な状況判断と役割分担を行っての連携した救護活動は、人名救助活動として旭川市消防署からも特に功績があったと認められました。

旭川市消防署の表彰式は、本校の表彰式と同日に旭川校第1会議室において行われ、表彰式終了後には消防署と表彰された学生との懇談会も開催されました。

今回の件は、心肺蘇生法やAEDの使用法を熟知しておくことの大切さを痛感させられる事例となりました。

旭川校では、将来教員として活躍する学生達に、定期的に講習を受けることの大切さを伝えていきたいと考えています。



■ 釧路校で釧路市と「たのしく!みんなで!手話講座」を合同開催

令和3年11月19日(金)、釧路市と合同で「たのしく!みんなで!手話講座」を開催しました。釧路校における特別授業として位置づけ、参加を希望した26名の学生が手話を学びました。

講座では、釧路聴力障害者協会の方から手話の歴史、ろう者とのコミュニケーション方法や接し方について学んだ後、2つのグループに分かれ、手話や指文字を使って簡単な挨拶や日常生活及び学校で使う言葉、自己紹介などを練習しました。

参加した学生からは「家族や身近な人に手話を伝えたい」「手話の意味と動きを結び付けて教えてもらい良かった」「興味をもっていたがふれる機会がなく、このような講座があって良かった」「特別支援教育実習で聴覚障害について学び、手話を学びたいと考えていた」「心と心で会話したり、表情で伝えあうことの大切さを学ぶ機会になった」等の感想が挙がりました。

釧路市では、平成29年4月に「釧路市手話言語条例」を制定し、手話を言語と定義しました。同条例では、ろう者が安心して暮らすことができるよう「市民一人一人の手話に対する理解を深め、手話を使用しやすい環境を整備していくことが必要」と規定し、それに基づき「学校において子どもたちが手話を学ぶ機会の確保」を進めています。

将来教師を目指す学生が、手話やろう者とのコミュニケーションに関心をもち、子どもたちと共有することでインクルーシブな地域・社会づくりに貢献できるよう、釧路校では今後も取り組みを継続していきます。



■ 釧路校で酪農家民泊体験実習成果発表会を開催

令和4年2月23日(水)、釧路校で酪農家民泊体験実習成果発表会を開催しました。

命の糧「食」とこれを産み出す第一次産業・農山漁村の価値・重要性を子どもたちに伝えていくことは、教員の大きな役割です。「酪農家民泊体験実習」は、このようなことを、身をもって実感し、理解を深めてもらおうと、根室地区農協青年部連絡協議会、株式会社ノースプロダクション、また、JA北海道中央会根釧支所等の協力を得て、「教育フィールド研究」の一環として実施しているものです。

ところが実施8年目となる令和2年度より、新型コロナウイルス感染症流行のため、従来通りの酪農家民泊体験実習の実施が困難となってしまいました。従来実施してきた酪農家民泊体験実習に代わり、命や食・農、第一次産業や農山漁村、地域や「つながり」の重要性等について実感的に理解していくためのプログラムを、受講生たち自身が作成し、実行する「プロジェクト学習」として取り組むこととしました。

その結果、令和3年度は、琉球大学からの交換留学生3名を含む8名の学生の参加により、牛の生態や酪農の仕事、JAの役割等についての講義や、これまでの取組や取組の成果等に関する講義も踏まえ、「牛の一生」、「乳製品が食卓に届くまで」また「乳製品の価格」について、他の学生たちに伝えるための壁新聞を作成しました。

酪農家民泊体験実習成果発表会は、その成果報告会として開催されたもので、壁新聞作成に当たりお世話になった根室地区農協青年部連絡協議会・野矢貴志会長および小野望副会長はじめ、対面・オンライン含めて20名の参加者がありました。成果報告会では、学生たちが実習を通じて学んだことを発表した上で意見交換を行いました。

また、ご協力いただいた酪農家からは、「短い期間で良く調べ、自分たちが見えないところを見ている。これをきっかけにつながりを持ち、子どもたちにも伝えていってほしい」といったコメントをいただきました。

コロナ禍の中の取り組みを、食育を軸としてつながりを維持し、つながり続ける仕組みづくりの契機とすると同時に、内容としても体制としても、afterコロナにおけるよりバージョンアップした酪農家民泊体験実習の礎とします。



■ 函館校の学生が日本造園学会北海道支部大会で「ポスター発表奨励賞」を受賞

2021年度の日本造園学会北海道支部大会（Zoomミーティングなどを活用したオンライン開催）が10月16日(土)に実施され、函館校景観生態学研究室（地域環境科学グループ・村上健太郎ゼミ）の池田瞬哉さん・吉田創さんらの発表が、「ポスター発表奨励賞」を受賞しました。

発表タイトルは「路面間隙に海産生植物群落は成立するか?」で、海産生の稀少植物を保全する目的で、人工構造物や路面間隙が生育地となりうるのかという問いに対して、調査・解析をした有意義な研究である点などが評価されました。日本造園学会北海道支部大会で本校景観生態学研究室の学生が表彰されるのは、2年連続となります。

池田さん(左)と吉田さん(右)▶



■ 岩見沢校の学生が「VTEC(国際バーチャル・チューバ&ユーフォニアム・カンファレンス)」

チューバ部門で優勝

令和3年5月29日(土)から6月2日(水)に開催された「VTEC(国際バーチャル・チューバ&ユーフォニアム・カンファレンス)」チューバ部門(20~23歳の部)において、音楽文化専攻管弦打楽器コース3年生の島圭佑さんが優勝しました。国際コンクールでの優勝は、管弦打楽器コースとしては初の快挙となります。

本大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送ったITEC(国際チューバ&ユーフォニアム・カンファレンス)の代替大会として、演奏動画の提出によるオンライン形式で開催されました。島さんが出場したチューバ部門(20~23歳の部)はシドニー交響楽団のスティーブ・ロセ氏、フィラデルフィア管弦楽団のキャロル・ヤンシュ氏、ソリストや教育者として世界的に有名なロジャー・ポポ氏が審査員を務め、島さんからも「豪華なメンバーに審査していただき、優勝できたこと、とても光栄に思います。今後より一層頑張ります!」との喜びのコメントが届きました。

優勝した島さん▶



■ 岩見沢校の学生が「第17回キャンパスベンチャーグランプリ北海道」で入賞

令和3年12月21日に開催された「第17回キャンパスベンチャーグランプリ北海道」において、芸術・スポーツビジネス専攻3年生の鴻野寛太さんが努力賞を受賞しました。

「キャンパスベンチャーグランプリ」は、全国8つの地域(北海道、東北、東京、中部、大阪、中国、四国、九州)で大学生・大学院生を対象に開催されているビジネスプランコンテストで、「学生起業家の登竜門」として知られています。

鴻野さんは、新型コロナウイルスの影響に伴いアパレルのEC市場が拡大していることに着目し、自分の体型データを反映したアバターを作成することで、実際の店舗に行くことなく服を試着できたり、試着させたアバターのコーディネートを他のユーザーと気軽にシェアしたりできる、新しいアプリサービス「アバター試着シェアサービス「Appatar」~次世代型アパレルSNS~」を考案しました。

鴻野さんは将来的に起業も検討しているとのことと、今後の活躍が期待されます。



受賞した鴻野さん

お知らせ

■ 育英事業SP返礼品企画について

本学と猿払村が相互協力協定を締結したことを契機に、この度、期間限定で、大学基金の育英事業の寄附者に、猿払村の特産品を返礼品としてご用意いたしました。

この機会に、ぜひ本学の育英事業にご協力いただき、猿払村の特産品を楽しんでお選びいただければ幸いです。

期間限定

育英事業SP返礼品企画！

令和4年12月～令和6年3月の期間中、北海道教育大学基金の「育英事業」にご寄附いただいた方限定で、本学と相互協力協定を締結している**猿払村の特産品**を返礼品としてお選びいただけます！

※「育英事業」とは・・・
教員や地域社会の様々な分野で活躍しようと勉学に励む学生を支援するための事業です。
毎年、成績優秀者に奨学金を授与しております。



寄附金額	コース	返礼品
15,000円以上	A-1	猿払村産ホタテ干し貝柱 200g
	A-2	猿払村産ソフトホタテ貝柱8粒入り 2箱
	A-3	五島軒×北隆丸ホタテバターカレー 4箱
	A-4	さるふつバター 100g 3個
10,000円以上	B-1	さるふつ牛乳使用濃厚プリン(ストロベリー) 6個
	B-2	さるふつ牛乳アイスクリーム(バニラ) 10個
	B-3	五島軒×北隆丸ホタテバターカレー 2箱
5,000円以上	C-1	さるふつバター 100g 1個
	C-2	さるふつ牛乳使用濃厚プリン(ストロベリー) 2個



- ◆ 本学HPの「基金への寄附について」から、「クレジットカードによる寄附」又は「郵便振替・銀行振込による寄附」をお選びいただき、ご寄附願います。
- ◆ 申し込みフォームの「寄附目的」は「育英事業等」をご選択いただき、「通信欄」に上記の希望するコース番号（「猿払村〇-〇コース」）を入力してください。

本学HP <https://www.hokkyodai.ac.jp/fund/>

- ◆ お申し込みから2～数週間程度で、返礼品製造業者からお手元に返礼品が届きます。

【お問合せ】

北海道教育大学基金事務局
TEL：011-778-0914 FAX：011-778-0631
E-mail：s-somu@j.hokkyodai.ac.jp
HP：<https://www.hokkyodai.ac.jp/fund/>



■ キャンパス活性化リノベーション事業について

本学では、新時代の幕開けとなった令和元年に、本学が70周年を迎えることを契機に、キャンパス独自の取組の活性化とリノベーション（再生・刷新・創造）実現を目的とする『キャンパス活性化リノベーション事業』を創設しました。

令和3年度は2つの事業を採択し、皆様からの多大なるご支援により、両方の採択事業で寄附目標額を達成いたしました。

キャンパス活性化リノベーション事業の詳細は、以下からご覧いただけます。

本学ホームページ <https://www.hokkyodai.ac.jp/intro/renovation/index.html>

〈附属札幌中学校〉
地域との出会い・共生を生む学びの環境創り事業

「人・自然との融和」=子どもの健やかな成長を地域と共有する、開かれた学校の実現へ

本事業に対する寄附金
寄附総額 1,058,000円
(寄附目標額100万円/達成率106%)



〈旭川校〉
地域教育を支える優秀な教員の輩出を目指して

—就職支援の充実化—
意欲ある優れた学生を学校教育現場へ

本事業に対する寄附金
寄附総額 1,593,000円
(寄附目標額151万円/達成率105.5%)



■■ クレジットカード決済によるご寄附について ■■

北海道教育大学基金のWebサイトからお申込みいただけます。

詳細はWebサイトをご覧ください。(スマートフォンからのお申込みもできます)

北海道教育大学基金 [検索](#)



■■ 北教大古本募金について ■■

皆様が読み終えた書籍等を提供いただくと、その買取金額が「北海道教育大学基金」に寄附され、育英事業等に役立てられます。ホームページからのお申し込みに加え、各キャンパスに回収ボックスも設置しております。不要となった書籍、CD、DVDなどのご寄附をお待ちしております。

北教大古本募金 [検索](#)

寄附者様特典

■寄附者のご芳名の掲載について

ご寄附をいただいた方々への感謝の意を込めまして、本学のホームページにご芳名を掲載させていただきます。また、高額のご寄附をいただいた方々につきましては、本学ホームページ上のWeb寄附者銘板にご芳名を刻み、未永く顕彰させていただきます。

※ご芳名の掲載の削除を希望される場合は、その旨ご連絡くださいますようお願いいたします。

■贈呈品について

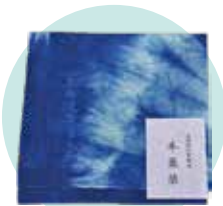
一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学関連の贈呈品を差し上げております。



ホタテ箸



コースター



藍染ハンカチ



木皿



石版レプリカ

■定期演奏会等への御招待について

一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学が実施するイベント（定期演奏会など）にご招待します。

税制上の優遇措置（税額控除制度について）

■対象：修学支援事業

租税特別措置法の一部改正により、国立大学等が実施する修学支援事業に充てられる個人からの寄附にかかる所得税の税額控除制度が導入されることとなりました。

北海道教育大学基金の修学支援事業へのご寄附は税額控除の対象となりますので、確定申告の際に寄附者様において、所得控除又は税額控除のいずれかを選択することができます。

$$\left(\begin{array}{c} \text{所得金額} \\ \text{(年収)} \end{array} - \begin{array}{c} \text{諸控除} \\ \text{(扶養控除等)} \end{array} \right) \times \begin{array}{c} \text{(税率)} \\ 5\% \\ 10\% \\ 20\% \\ 23\% \\ 33\% \\ 40\% \\ 45\% \end{array} = \begin{array}{c} \text{所得税額} \\ \text{(寄附金-2,000円) \times 40\% を控除} \end{array}$$

寄附金のうち、2,000円を超える額の40%が所得税から控除されます。その金額の所得税が還付されます。
※所得税額の25%が限度です。

《例：年収500万円の寄附者が1万円寄附した場合》

○税額控除の例：税率に関わりなく、8,000円×40%=3,200円

○所得控除の例：(10,000円-2,000円=8,000円) × (税率10%(平均的な世帯の諸控除額を想定)) = 800円

国立大学協会資料から一部転用

【お問い合わせ先】

北海道教育大学基金事務室

〒002-8501 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

北海道教育大学総務企画部総務課内

TEL:011-778-0914,0915 FAX:011-778-0631

E-mail:s-somu@j.hokkyodai.ac.jp

https://www.hokkyodai.ac.jp/fund/

2022.11発行